



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2740



2019-2020年度 国際ロータリー第2740地区

ガバナー 千葉 憲 哉

2020. 6
Vol. 12



ROTARY CONNECTS THE WORLD



2019-2020年度 国際ロータリーのテーマ
ロータリーは世界をつなぐ

CONTENTS

表紙の写真説明

黄金の穂波ゆらして
はつ夏の風ふき渡る
さわさわと豊作の歓び
大きなうねりがどこまでも
もう刈り入れの音がする

国際ロータリーのテーマ	1
Governor's message	2
2020-2021年度 会長エレクト研修セミナー報告	3
ガバナー補佐退任挨拶	4
地区委員長退任挨拶	9
会員数・出席報告	17
新入会員・物故者紹介・寄付者紹介	18
ガバナーノミニー・デジグネート決定のお知らせ	19
文庫通信 [382]	19
報告 フェース・シールド寄贈について	20
芸術家の視点・編集後記	裏表紙

Governor's message



ロータリー2019－2020年度私の走馬灯

2019－2020年度第2740地区ガバナー 千葉 憲 哉

先月のガバナー月信で私がロータリーで得た一番の思いを書かせて頂きました。第2740地区のバスターの皆様からのロータリーの真髄「利己と利他の調和」を教えて頂きましたことは人生の教訓でした。先日、「ポスト・コロナの世界をどのように救うか？」とのTV番組がありました。「新型コロナ感染症により世界は1930年の世界恐慌以来の経済恐慌をもたらすと言われており、パラダイムシフトを起こす。世界を救うのは「利他」である。」と、フランス経済学者ジャック・アタリが指摘していました。その指摘に私は思わず「そうだ！ ロータリーだ。」と叫びました。ポスト・コロナの世界恐慌を救うのはロータリーの「利己と利他の調和」の精神であると改めて、その確かさを自覚しました。確かに、1930年の世界恐慌の時、「利己と利他の調和」を守ったロータリアンの企業が倒産を免れたのはロータリーの歴史上の有名な事実です。「利己と利他の精神」を忘れないなら、コロナ恐慌を乗り切れるはずです。ロータリーはポリオなど感染症に挑戦し、何よりも企業経営の理念を教えてください。ロータリーに誇りを持つ時代が100年以上続いてきました。これからもロータリアンであり続けて、ロータリー活動を楽しんでください。

1年間、大変お世話になりました。やっと6月がきました。無事に花鳥ガバナーエレクトに引継ぎが行われたら、お役目が終わります。

諫早北RCの緒方聖君に月信編集長を担当していただきました。月信を読まれている皆様は転載されている写真とその説明、芸術家の視点、諫早の文人の作品紹介、詩の格調高さに気づかれたでしょう。四季折々の本明川沿いの写真一枚一枚も実際に現場に自ら撮影に行かれ、文章も推敲に推敲を重ねて練り上げられているものです。文芸の郷、諫早ならではの人材、同編集長の素晴らしい感性による力作でした。また、校正、編集にと協力していただいた諫早RCの廣渡雅也君と諫早北RCの川崎健君に感謝いたします。皆様の努力にもかかわらず、私のガバナーメッセージの内容が「いまいち」だったのはご勘弁ください。

振り返って、この1年、私がロータリーに何ができただろうか？ と、あれもしたかった、これもしたかった、でも何もできなかったと反省しきりです。当初、公式訪問と地区大会をうまく務めることが私の役目と思っていました。ところが、昨年7月以来、いろいろなことがありました。佐賀の豪雨災害、年が明けたら、新型コロナ感染と世の中がひっくり返るような出来事が起こり今も続いています。今年3月以後、数か所の地区でのIMやクラブ周年行事ができなくなりました。例会まで中止せざるをえない事態です。例年に無い出来事でしたが、豪雨災害時には平岡清宏ガバナー補佐、国際青少年交換学生の早期帰国などでは委員会の皆様に、4月27日の新型コロナのフェース・シールド緊急寄贈では第2760地区の伊藤靖祐ガバナー、大石竜基地区幹事に助けて頂きました。

全ての皆様から驚くような支援を頂きました。なんと言っても全てを取りしきってくれたガバナー事務所宮田真由美さん、川口文子さん、いつでも私の勇み足の尻ぬぐいをしてくれ、いつも側にいて手足を動かしてくれた地区幹事の大石竜基さん、公式訪問のお世話、数々の問題解決に常に協力していただいたガバナー補佐の10人の皆様、地区大会はじめ地区の役員を務めて頂いた所属クラブの諫早北RCの皆様、ロータリーに無知な私を温かくアドバイス、指導して頂いたバスターの皆様、クラブ訪問時も温かく迎えて頂いた第2740地区の56クラブの会長・幹事そしてクラブ会員一人一人の方々の顔と手のぬくもりが今も残っています。ロータリアンの中には、仕事や地域での知り合い、学生時代の同級生、大学の恩師、先輩方とお会いし、訪問時、拝顔させて頂き、思わずほっとさせていただきました。また全国34地区のガバナーおよび令夫人の方々、そして日本ロータリーの皆様、地区いや日本の全ロータリアンが地区大会訪問時に私と妻に注いでいただいた温かい思い出が走馬灯のように目に浮かんでいます。人生の終盤になり、人生観が急に180度変わり、私を取り巻く世界が広がりました。人生の最大の忘れる事のできない出来事でした。すべての人に感謝してもし尽くせません。1年間の思い出の写真とロータリーの資料が山のように貯まりました。そして側でいつもロータリアンとしてアドバイスと海外、国内の訪問を支えてくれたのは妻でした。感謝。



2020－2021年度 会長エレクト研修セミナー報告

次年度地区幹事 迎 雅瑠嗣（鹿島RC）

新型コロナウイルスの感染拡大で自粛ムードが広がり、当初3月15日(日)を予定しておりましたが4月12日(日)に変更し、内容に充実を図りながら時間短縮をして、鹿島市の割烹 清川で開催することになりました。

ところが、4月7日に7都府県に対し緊急事態宣言が発令された為、この状況下での開催を中止せざるを得なくなりました。

そこで、第2740地区の第1～第10グループのガバナー補佐にお申し、グループ別で最少人数での開催とさせていただきます。

P E T Sの資料として、「会長エレクト研修セミナー」の冊子と「DVD」を作成し、各グループに配布し、その資料をもとにセミナー開催となりました。

「DVD」は、前編にR I会長エレクト ホルガー・クナーク氏の2020～2021年度テーマと方針、後編に花島エレクトの2740地区ビジョンや地区運営方針（DLP）並びにクラブ運営（CLP）を取り上げ、理解しやすいようにしております。

以上の事を各グループのガバナー補佐にお申し、ご指導いただいた事を厚く御礼申し上げますと共に、このような状況の中でセミナーにご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

◎各グループの会長エレクト研修セミナー（P E T S）開催



ガバナー補佐退任挨拶



第1 グループ ガバナー補佐 **白石公太郎**（牛津RC）



早いものであつと云う間に1年が過ぎてしまいました。就任挨拶、クラブ協議会、公式訪問等、各クラブの皆様方には大変御世話になりました。

今年度は、千葉ガバナーによるアンケート調査に始まり、ロータリー活動に対する意識改革を促す1年の始まりでもありました。大石地区幹事はじめ、2740地区の10グループのガバナー補佐の皆様とお会いし、色々と御指導を頂きました。又各クラブの会長・幹事の方々との出会い、ロータリーに対する熱意と行動力に心より感謝申し上げます。クラブ訪問の際には、ロータリーを良く理解し、実践されているクラブが多く、それぞれのクラブが地域に密着した奉仕活動をされている事に大変感銘を受けました。

昨年、2740地区は1クラブ減の56クラブとなりました。ロータリーには会員増強と退会防止は大変重要なものです。経済環境の変化と共に、若手経営者の減少、後継者不足等さまざまな要因はあると思いますが、ロータリーは楽しい、入会したいと思えるような魅力ある奉仕団体にしていきたいものです。

又、昨年は8月の集中豪雨により甚大な被害にあわれた方も沢山おられたと思います。そして今年は新型コロナウイルスが世界的な拡がりを見せ、何時終わるかも分からない現状に私達ロータリアンの活動も制限され、各種行事や奉仕活動等、実行委員の皆様がギリギリまで頑張ってこられた企画も中止や延期になり、大変残念でなりません。

最後になりますが、1年間ガバナー補佐として何も出来なかった事を御詫びすると共に、御指導頂きました千葉ガバナー始め、大石地区幹事、第2グループ山崎ガバナー補佐、そして各クラブの会長・幹事の皆様の温かい御支援・御協力に心より感謝申し上げます。本当に有難う御座いました。



第2 グループ ガバナー補佐 **山崎 唯之**（神埼RC）



ガバナー補佐の大役を引き受け、後悔と不安の中で初めてのガバナー補佐研修に参加致しました。第2グループガバナー補佐の肩書きが印字された名刺を頂き、さらなる責任の重さを感じました。しかし、他グループのガバナー補佐の方々と名刺交換をし、お話を伺えば皆様不安をお持ちだとわかり安心しました。

地区研修、地区協議会、ガバナー補佐研修と千葉ガバナーの方針とロータリーの知識を深めながら7月を迎えました。

早速、担当クラブへのクラブ協議会、そしてガバナー公式訪問が始まりました。

その中での8月末の佐賀豪雨によりガバナー公式訪問の延期、それにもまして、甚大な被害が出た、第3グループ、第1グループの会員の方々を危惧致しました。

9月には無事、クラブ協議会、ガバナー公式訪問をすべて終え、10月19日の佐賀北クラブ50周年、11月9日の地区大会を盛会裏に終え一安心致しました。

年が明け、佐賀クラブがホストされました全国RYLA研究会も盛会裏に終わり、あとは第1、第2グループ合同IMを無事終えればと思っていた矢先、新型コロナウイルスにより中止となりました。ホストクラブである佐賀クラブの方には申し訳なくおわび申し上げます。最後になりましたが、一年間ご指導いただきました、千葉ガバナー、大石地区幹事、他グループのガバナー補佐の皆様、第2グループ5クラブ会長、幹事並びに会員の方々の温かい友情によりまして一年を終える事が出来ました。心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

ガバナー補佐退任挨拶



第3グループ ガバナー補佐 平岡 清宏（武雄RC）



今この原稿を書いているのが、4月の中旬です。皆様に読んで頂いている時、新型コロナウイルスの関係で、世の中がそしてロータリーがどう変化しているのか予測もつきません。

第3グループガバナー補佐として、6RCとなって初めてのクラブ協議会・公式訪問の最中に、佐賀豪雨災害が8月末に発生し、状況が一変しました。地区内外のロータリアンのお蔭様で義援金を賜り、被災された地域・会員企業に、仲間として勇気と希望を頂きました。

復興も落ち着き、さあこれからグループ内の事業をと楽しみにしていましたが、新型コロナウイルスの影響で、3月より各クラブ共、例会さえも開催出来なくなりました。残されておりましたI・M並びに親睦ゴルフ大会も中止に追い込まれてしまいました。嬉野RCさんは、楽しみにされておられた50周年のお祝いも断念されました。

正味8カ月しか活動ができておりませんが、グループ内の会員諸兄と楽しく交流させて頂きました事が、大きな財産となりました。欲を言えばもっともっと交流をとの思いがありますが、未曾有の危機の前では無力なものでして残念で仕方ありません。

千葉憲哉ガバナー、大石地区幹事、同期ガバナー補佐の皆様には、色々ご指導を賜りありがとうございます。良きご縁を頂いたとこれからも大事にさせていただきます。

最後になりますが、グループ内6RCの会長・幹事さんを始め170名の会員のご支援に深く感謝申し上げまして、退任のお礼の挨拶とさせていただきます。



第4グループ ガバナー補佐 辻 幸徳（唐津RC）



2019-2020年度2740地区第4グループのガバナー補佐として退任挨拶を申し上げます。

補佐として唐津・伊万里各地区での新旧会長幹事会への参加から活動が始まりました。

各々のクラブ協議会では千葉憲哉ガバナーの地区方針（テーマ）の概要・背景を説明、そして「アンケート調査」の内容・改善点を共有すべく協議会に参加を致しました。

それぞれのクラブ訪問時には心温かく迎えて下さり、ガバナー公式訪問随行と共に貴重な素晴らしい思い出深いものになっています。

ガバナー補佐会議では2740地区での諸々の情報が共有され、また同日に開催された各種セミナーも改めてロータリーを知る良い機会になりました。

下半期では残念ながら新型コロナウイルス感染の拡大に伴い諸々の行事が中止、延期になりました。その中でもぎりぎりのタイミングでIMを開催できた事は多くの会員の皆様のお陰と心より感謝申し上げます。

グループ内の各クラブ運営に関し補佐として千葉ガバナーを十分にアシスト出来たか心もとないですが、今後ともこの度築かせて頂いたご縁を大切にロータリー活動を続けて参りたいと思います。

最後になりましたが1年間の長きに渡り補佐として支えて下さいました皆様に厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

ガバナー補佐退任挨拶



第5グループ ガバナー補佐 **法師山真人**（北松浦RC）



思い起こせば、一昨年のこと、ガバナー補佐就任の要請があり、自分には荷が重い役職と思いましたが、以前先輩会員よりロータリーに於いては、役職を与えられたら素直に受け、努力を重ねる事が自分を育てる事だと言葉を頂いた事を思い出して受諾しました。

それから、ガバナー補佐研修会、ガバナー補佐会、ガバナークラブ公式訪問に於いて、千葉ガバナーと大石地区幹事のロータリーに対する熱き思いを受け、特に千葉ガバナーのクラブ訪問卓話に於いては、今までのガバナーとは違った観点からロータリーを平易に解説して頂き、この人の下でなら一年間頑張れると確信してやってきました。

まず、ガバナー事務所としては、この一年2740地区全クラブに於いて、クラブ内の諸問題に対するアンケート調査を実施し、各クラブの現状の分析を行い将来の展望を明らかにされた事。

次に、ガバナー補佐会に於いては、地区幹事出席のもと、第3グループ内での河川氾濫被災に対する被災クラブへの見舞金送金名目等に関し、各ガバナー補佐の明確な意見交換には、誠に感じ入りました。

また、第5グループの皆様には、ガバナー補佐就任挨拶、クラブ協議会、ガバナー公式訪問において温かい歓迎を受けました。そして、平戸、松浦、北松浦の合同例会と懇親ゴルフ大会を開催して頂き、誠に有難うございました。

最後になりましたが、千葉ガバナー、大石地区幹事、ガバナー事務所の職員、同期のガバナー補佐、皆様の今後の御健闘を願い、退任の挨拶と致します。



第6グループ ガバナー補佐 **岡田 金助**（ハウステンボス佐世保RC）



佐世保市内第6グループ・ロータリークラブ会員の皆様、2019～2020年度ガバナー補佐でクラブ例会に出席させて頂きました、1年間ありがとうございました。後半2020年6月までクラブ訪問を予定していました。新型コロナウイルス対策で出席ができませんでした。千葉ガバナーがお伝えできなかったこと、ロータリーへの思いを皆様にお伝えできなかったことは残念に思っています。

「今、ロータリーは危機なんです！……」から始まって、各クラブそれぞれにアンケート調査の結果を見ながら、ロータリークラブのありようをお話しできたことを、私は学ばせていただきました。

佐世保市内6クラブは歴史ある伝統クラブですから、創立者の思いこそがクラブの伝統であり、歴史となつて今があるということでしょう。各クラブを訪問しながら会員の皆様と情報を共有できたことは、とても喜ばしいことでした。

ロータリーからのあれを見て学びなさい、これを学びなさいと言われますが、何処にも、何も書いてないです。つまりは自分で探して学びなさいです。自己啓発は自分で探しなさい、学びなさいということでした。各クラブを訪問しながら私が多くのことを学ばせていただきました。Covid-19を克服して新たに皆様に会える日を楽しみにしています。

ガバナー補佐退任挨拶



第7グループ ガバナー補佐 **比良 孝蔵**（大村北RC）



有難う御座いました！ ガバナー事務所をはじめ第7グループの皆様のご支援に感謝申し上げます。

ガバナー補佐就任以来、「光陰矢の如し」で、まだ見たことのない世界の先に何が見え、何を感じることができるのか？ 少しの不安と大きな期待感の中で、事前教育というべきベッツ、地区研修協議会、新旧ガバナー補佐会議に始まりグループ内、各クラブに対し就任挨拶、クラブ協議会、ガバナー公式訪問や地区大会、インターシティー・ミーティング、各種セミナーに適度な緊張感の毎日は充実した日々でございました。前期において所属クラブ仲間と行動したメーク・アップツアーは大村3クラブと島原3クラブの皆様との夜の例会及び懇親会は生涯の良き思い出です。後期には再度メーク・アップツアーやゴルフコンペを兼ねた懇親会の開催を計画中でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響でクラブ例会、各種セミナー、国際大会、クラブ創立記念式典等と共に中止に追い込まれたことは残念ではありません。殆ど活動できなかった事を申し訳なく思い、何処かへ何かを忘れてきたような虚空を感じます。

しかし、国際ロータリーのテーマ「ロータリーは世界をつなぐ」と地区方針のチャレンジしよう「変化、活性化、つながる、伝える」はこの苦難にロータリアンが打ち勝っていかなければならないと云う暗示だったような気がいたします。この状況はロータリーを顧みる良き機会でありましたので、佐古亮尊PG著書「ロータリーの森を歩く」を再度読み返し、先達の経験の中から学ぶべき点がたくさんあったように感じました。これからも「四つのテスト」と「寛容の精神」を支えに精進していきたいと思います。

最後にロータリアンの皆様のご健康とご多幸をお祈りし、退任の挨拶と致します。

感謝。



第8グループ ガバナー補佐 **栄田 元信**（諫早RC）



波乱と激動の1年が終わろうとしています。2018年12月諫早での次年度ガバナー補佐研修会から始まり、2月は地区チーム研修、3月はPETS、4月第8グループ新旧会長幹事会、5月地区研修・協議会、6月は新旧ガバナー交代式、第1回ガバナー補佐会議、米山記念奨学会委員長セミナーと準備を重ね、7月からのスタートは順風満帆でした。7～8月は諫早南RC、諫早多良見RC、諫早西RC、諫早RCのクラブ協議会及びガバナー公式訪問、諫早北RCは9～10月におわり、9月に佐賀県の豪雨災害に対する全国のロータリークラブからの義援金の配分について検討し、のちに激甚災害の指定を受けた自治体へ直接届けることとなりました。10月は社会奉仕セミナー、11月は地区大会に合わせて危機管理セミナーに参加、地区大会は諫早文化会館とL&Lホテルセンリュウで開催され歓迎晩餐会にはRI会長代理を招待しない画期的な晩餐会でした。今後の参考になれば幸いです。さらに11月にはロータリー財団セミナー、2月に補助金管理セミナーが開催され、2月15日には第8・7グループ合同IMを開催しました。翌16日に基本理念セミナーが開催され、ここで地区主催の会議等が終わります。だれもここでRC活動がストップするとは思いませんでした。1月に中国武漢で発生が発表された新型コロナウイルスは世界へと広がり始め市内の小中学校の卒業式は来賓なしで行われ、各種会合は中止や延期を余儀なくされ、諫早RCの60周年記念式典・懇親会も一旦5月末に延期されましたが、中止となりました。例会は4月の第1週目4月3日(金)は開催されましたが、以降は5月中までの休会が決まっています。先が見通せない中、次年度の準備がスタートできない状況にあります。このように長期（現時点で3～5月）に亘って例会が開催できない異常事態はロータリー始まって以来のことと思われます。いずれは収束すると思われますが、何時どのような状況で収束するか分かりません、そしてその時ロータリーはどのような役割を果たすべきなのでしょう、どのような事態になろうともその時の最善を尽くすべきと考えます。皆さんこの難局に対して力を合わせて乗り切りましょう。

ガバナー補佐退任挨拶

第9グループ ガバナー補佐 **浦 信夫**（長崎琴海RC）

ガバナー補佐として一年間大変お世話になりました。各クラブを訪問させて頂き、諸先輩の前に額に汗かきながら挨拶をするという貴重な経験もできました。千葉憲哉ガバナー、大石竜基地区幹事、地区内のガバナー補佐の皆様と活動できたことを嬉しく思います。殊に第10グループ小野原ガバナー補佐はじめ、第9、第10グループの会長、幹事の皆様には何かとご協力頂き、ありがとうございました。

2018年12月22日のガバナー補佐予定者会議に始まり、地区チーム研修セミナー、P E T S、キックオフミーティング、協議会等参加しながらも、満足のいく活動となし得なかった自身の取り組みに反省しきりでの降板の時となりました。

公式訪問の折、各クラブの会員の皆様と顔を合わせたり、地区大会やインターアクト年次大会でのホストクラブの活躍を拝見し、改めてロータリークラブの活動の意義を実感致しました。第9、第10グループのインターシティミーティングではホストクラブの皆さんの尽力に感謝申し上げます。

で、すんなり終わるはずが、終盤にきて新型コロナ蔓延で例会その他あらゆる会合に支障をきたすこととなり、混乱の中に年度末を迎えようとしています。どれだけ皆様のためになれたかわかりませんが、出会いと経験の充実した一年を送らせて頂きありがとうございました。

最後に、ガバナー事務所の皆様には、出だしから終盤まで何かと迷惑ばかりおかけし、申し訳ありませんでした。いたずらに年数だけ重ねてきましたが、これを機会に少しでも前進できれば幸いです。ありがとうございました。

第10グループ ガバナー補佐 **小野原卓嗣**（長崎北RC）

就任以来9、10グループの皆様大変お世話になっております。特に第10グループの皆様にはクラブ協議会、ガバナー公式訪問の節は温かく迎えて頂き有意義な時間を持たして頂き感謝申し上げます。

又2月のI・Mでは長崎クラブホストクラブの下で開催致し五島からも多数参加頂き9、10グループの懇親を深めた楽しい会になりましたことを感謝致します。

新型コロナ発生のため3月より各クラブ例会休会が続いており寂しい思いをしています。

しかし我が身、家族、会社が大変な時期です。乗り切っていきましょう！ 6月もし例会が開催されましたらクラブ訪問にお伺いし1年間のお礼を申し上げたいと思いますが叶わない時はこの文をもちましてお礼と致します。

有難う御座いました。

地区委員長退任挨拶



基本理念委員会 **吉岡 義治**（佐賀南RC）



皆様のご協力を得て、この1年間委員会を運営できたことに感謝いたします。

「ロータリーとは何か？ さらに行動するにはどうしたらよいか？」を考えてもらう委員会としてこの委員会は誕生しました。

退会による会員減少を防ぐには、まずは例会を盛り上げることです。それには、「奉仕の理念」「ロータリーの理念」について議論を深め、高い倫理基準を保ち、自らの仕事を高潔なものにする必要性があります。その上で、もっと一般の方々にもわかりやすく、より具体性をもって奉仕の形で社会に還元することが大事です。

そこで熟考し、RLIディスカッションリーダー研修でのファシリテーションを使った会議方式を取り入れました。

ロータリーのファシリテーションとは、例会活動が円滑に進むように、そして例会の成果を最大化できるように促進することです。

その為には、マルチな進行役のファシリテーターが必要となります。そこで、地区の何人かの奉仕部門の委員長の方に声をかけ、3回に渡るRLIディスカッションリーダー研修を受講して頂きました。

その結果10名のファシリテーターが誕生しました。

もっと身近になるよう、今後も地区内にファシリテーターを増やしていきます。

近い将来、各クラブの例会が、毎回、皆が活発な意見を出し、切磋琢磨して己の限界を知り、自分の職業への転機を見出すことのできる場所になればと願います。



クラブ管理運営委員会 **竹田 健介**（平戸RC）



新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、例会も3月からずっと休会が続いています。そしていつ終息するとも知れぬ中で、自粛を強いられ、行動を制限されています。クラブ管理運営委員会はクラブの円滑な運営を助けることにあります。それぞれのクラブが活発な活動をしていくためには、それを担う新しい世代の人たちが必要です。どうしても会員を増強していくことが求められます。どうしたら会員を増やすことができるのか。もっと魅力的な例会運営をし、各自が充実したロータリーライフを送ることができるのか。いつの時代も、そのことに注力し、その歴史を積み重ねてきました。しかし毎週の例会リズムがなくなり、まずは自分たちの事業の行く末を優先しなければならぬ状態になりました。約100年前の世界恐慌にも匹敵する経済危機とも言われています。その当時、1933年のボストン大会で一人の代表委員が問いかけました。「危機の時には、人々は悪いものの矯正に急ぐ傾向がある。現状はロータリーが一時的にその理想の一部を下げることを意味するだろうか」。チェスリー・ペリーは返答します。「私たちは大邸宅や、高級車や、強いては銀行口座さえなくてもやっていける。これらは幸福の絶対条件ではない。しかし、一つ私たちが失ってならないものはビジョンだ。そして一つ私たちがしてならないことは、他者への奉仕という理想の一時停止を許すことである」世界各地のロータリークラブは、会員の多くが経済的にも苦しいにもかかわらず、各地域で最も困窮している人々を助けるプロジェクトを開始した。私たちも目の前の危機を乗り越え、先人に誇れる行動をとりたいものです。

地区委員長退任挨拶



会員増強委員会 **佐藤 豊**（長崎琴海 R C）



「ロータリーは世界をつなぐ」の年間テーマのもと千葉ガバナー年度がスタートした。2019年5月19日開催の地区研修・協議会では活動方針として次の4項目を発表した。

1. 退会防止のため新会員への教育実施
2. クラブ運営の見直し（会長の時間・出席率の向上）
3. 家庭集会、ロータリーデーの活性化
4. 会員候補者のフォローアップ（SAKUJI大作戦）

7月28日(日)東彼杵総合会館 会員増強セミナー（ガバナー月信No.3 P.4 報告）

1月19日(日)東彼杵文化ホール 新会員セミナー（ガバナー月信No.9 P.4 報告）

特に今期は、新会員（入会3年以内）の皆様がロータリーへの知識と関心を深めて頂くことを願って3冊のテキストを全クラブへお届けした。多額の費用を要したが、千葉ガバナーの決断で実現できたことは記憶に新しい。更に、新会員向けの講師として熱意あるお話を頂いた千葉ガバナー、岩永信昭バスターガバナー、駒井英基バスターガバナーに心からお礼を申し上げます。

第1～第10グループガバナー補佐の皆様にも力強いご支持をいただき感謝いたします。

一連のこうした活動が充分実施できたことは、10名のロータリアンが会員増強委員としてご活躍頂いたことです。井手浩利（佐賀大和）、古川健太郎（佐賀西）、中山晴義（佐賀南）、藤永勝之（鹿島）、西島治（唐津）、貞方正一（平戸）、馬場貴博（佐世保中央）、上田善行（大村北）、石本潤治郎（諫早北）、折式田一豊（長崎西）の皆様です。（敬称略）

会場準備から最後の片づけまで精一杯の役割を果たしていただき、心強い仲間でロータリアンのお手本と確信しました。有難うございました。

更に、会場の予約や2回のセミナー開催時は受付など多岐にわたるお手伝いを快くお引き受けくださったガバナー事務所の宮田さんにお礼を申し上げます。

次年度は花島ガバナー年度となり、藤永勝之氏が会員増強委員長としてご活躍頂けることになっています。

新型コロナウイルスの影響は私達の第2740地区に限らず、日本中、世界中のロータリーの活動を激変させています。

周辺の事情が厳しい時だからこそ、ロータリークラブの存在意義は重要性を増していると確信して会員増強を進めていきましょう。全てのロータリアンにこの一年のご指導、ご協力に対して感謝と万感の思いをお伝えして退任挨拶といたします。ありがとうございました。



公共イメージ委員会 **久保 泰正**（諫早西 R C）



まず皆様に公共イメージ委員会の活動にご理解とご協力、またご支援を賜りましたことを御礼申し上げます。

当地区に公共イメージ委員会が初めて作られてから3年の間、委員長を務めさせていただきました。2017-18駒井ガバナー、2018-19福田ガバナー、2019-20千葉ガバナーと3人の個性豊かなガバナーのもと、公共イメージ委員会の基礎作りから始め3年目にしつと全国レベル並みの委員会に迫りました。その間、多くの皆様のご協力をいただいたことを改めて感謝申し上げます。

次年度からは、これまでの公共イメージの活動を基礎にして、さらなる飛躍、進化が必要となります。

特にロータリーの一番のウイークポイントであるロータリーのIT化、例えば今回の新型コロナウイルスの感染拡大によるロータリーの協議会の開催、地区委員会の開催が中止になる中、新たにIT化の導入によるリモートワークでの解決策や、クラブの例会の休会が数カ月続く場合に、どのようなIT化をめざすのか、またZOOMなどでどのように例会を続けていくのかの課題が浮き彫りになりました。

このように全く新しい問題が持ち上がっています。これまで以上に会員の絆をより強くしていく方法を、また新しいやり方を考えていかなければなりません。

今回のコロナ危機もロータリー115年の歴史から学んでいけば、きっとアフターコロナの世界でもロータリーは更なる繁栄をしていくに違いありません。

新しいロータリー活動を新しい人にバトンタッチできることに感謝申し上げて、皆様に対する私の退任の挨拶といたします。

地区委員長退任挨拶



社会奉仕委員会 **帯屋 徹** (大村RC)



本年、千葉ガバナーの下、地区社会奉仕委員長を務めさせて頂き、色々な体験を通し学ぶことの多い一年間であり、ご指導ご協力頂きました皆様にまずもって、心より感謝を申し上げます。

特に社会奉仕委員の皆様には、地区研修協議会や地区社会奉仕セミナーの準備などを含め委員会を7回、佐賀の洪水視察等多くの時間を費やして頂き、ご協力賜りました、皆様の友情に支えられて委員長の責務を全うできました事、衷心より御礼を申し上げます。

又、昨年10月に開催いたしました社会奉仕セミナーには、元熊本県知事、慈愛会理事長が在られます、潮谷義子先生を迎えての、「児童虐待—命の育ちは支えられているのだろうか?」の講演、又、千葉ガバナーが提唱されているファシリテーション方式による「児童虐待防止—今我々に何ができるのか」をテーマに参加者が10グループに分かれファシリテーションに熱心に取り組んでいただきました。この当地区初の試みが、地区ロータリー研修の新たな一歩を踏み出せたのではないかと考えております。

又、2017年6月RI理事会において

- ・職業奉仕委員会と青少年（新世代）奉仕委員会の責務を、社会奉仕委員会に統合する。
- ・ロータリー地域社会共同体とロータリー親睦活動委員会の責務を、社会奉仕委員会に統合する。
- ・地区クラブ奉仕委員会をなくす。

この事を2019年7月より開始するとの決定がなされ（当然クラブには自治権が在るので命令ではなく推奨という形では）奉仕プロジェクト部門が大きく変わろうとしています。当地区においても地区の社会奉仕、職業奉仕委員会が無くなったり復活したり、なぜこんなことになるのか不思議に思っている方も多々います。そんな変動の時なのです。次年度は社会奉仕、職業奉仕委員会とも共存すること、今日まで続けてきた地区社会奉仕活動を継続発展していただけますようお願いし、次期佐藤誠委員長にバトンタッチをしたいと思っております。

※最後に卓話の依頼を受けておりました各クラブ様には、例会中止となり、折角の機会を頂いたのに大変残念です、申し訳ありません。



ローターアクト委員会 **高松 茂信** (鹿島RC)



平成28年よりローターアクト委員として活動し、本年度念願のローターアクト委員長に就任しましたが、まず突き付けられた事は10クラブ中、5クラブが活動休止中という厳しい現実でした。では残った5クラブは全て安泰かと言えばそうではありません。世の中でいう所のアラサーは、色々な問題を抱えているようです。社会的にも丁度、中間管理職を任せられ上司と部下の間に立たされるのもこの頃だし、結婚という人生の転機が訪れるのもこの頃ではないでしょうか。

皮肉にもこのようなイベントはアクト活動において向かい風になる事が多く、事実鹿島ローターアクトでも、出世や結婚により活動が衰退してしまった感があります。まあこれは誰が悪いという事では無いでしょう。ただ現在アクトのアイデンティティが問われているとするならば、「アクトで何を学ぶか」ではないでしょうか。ただ集まってボランティア的な事をする、ただ集まって食事会をするだけでは2740地区のアクトの先は見えていません。具体例を挙げるならば勉強会を開くべきではないでしょうか。職場や学校では教えてもらえない「今この瞬間をどう生きるか?」など学んでいくのはどうでしょうか。

一年間本当に有難うございました。

地区委員長退任挨拶



インターアクト委員会 徳川 清隆（唐津RC）



地区インターアクト委員長を退任するにあたりご挨拶を申し上げます。

初めに、地区インターアクト年次大会（2019／8／3 長崎ブリックホール開催）では、ホスト校として事前準備から大変ご尽力頂いた海星高等学校のインターアクトの皆さん、それをご支援いただきました長崎西RCの許斐会長はじめ会員の皆様方の力強いお力添えで、成功裏に終わり感謝致すとともに関係者の皆様方に厚くお礼申し上げます。

尚、詳細につきましては「第37回インターアクト年次大会報告書」に纏めてありますのでご一読下さい。

また、本年度、年2回計画していた指導者研修会は、予定通り実施できました。前期指導者研修会（2019／10／12 東彼杵会館）では、テーマ「地球環境を考えよう！」とし、矢野博巳様（NPO環境カウンセリング協会長崎理事）の「海洋ごみとプラスチック」の基調講演を通じて、ワークショップを実施し、参加者へより深い海洋ごみについて見識醸成と課題把握ができたと思います。ここでは、ローターアクト地区代表堀山幸平様とメンバーの皆様がグループリーダーとして参加頂き、ローターアクトへの親近感が芽生えた機会にもなりました。後期指導者研修会（2020／2／1 東彼杵会館）では、テーマ「国際理解と国際平和」とし、ロータリー青少年奉仕の理念の下、インターアクト、青少年ファミリー（ローターアクト、国際交換留学生、ROTEX、米山記念奨学生）の方々に参加頂き、其々の活動内容を拝聴、青少年ファミリーが友情と交流の機会が得られたところです。この様な機会を継続することは国際理解と国際平和へ繋がっていくと思います。

今年度、2740地区内のインターアクトクラブへの例会訪問を計画しました。

其々のクラブによって形式は少し違っていました、内容は常に吟味され実施されていると感じたところです。後半予定していた例会訪問は、社会環境の感染悪化により断念せざる事となったのは予想もしなかったところです。

地区委員会で検討をしていた「インターアクト活動認定書」は、今年度、初めての発行となり希望されたインターアクトクラブには配布を既に終えたところです。

最後になりますが、これまでに、委員会を支えて頂きました地区委員の皆様、ご支援を頂きました提唱ロータリークラブの関係各位、そして、ご協力頂きました地区関係各位に感謝申し上げ退任挨拶といたします。1年間有難うございました。



RYLA委員会 山口 宏二（長崎RC）



地区委員として3年、委員長として3年、計6年間務めさせて頂きました。

本年度のRYLAにつきましては、残念ながら新型コロナウイルス感染拡大防止により中止と致しました。昨年からホストクラブとして開催の準備を進めて頂いた長崎北RCの方々へは感謝申し上げます。

2月には佐賀RCがホストクラブとして、全国RYLA研究会が開催されました。東京並びに神戸にて毎年開催されておりましたが、RYLAの全国的な連携、普及並びに情報共有を目的として、今年は当地区で、来年は2800地区山形にて開催される予定です。私も研究会の分科会にて、「RYLAの現状と課題について」とのテーマにてパネルディスカッションのコーディネーターを担当させて頂きました。他の地区の開催方法並びに運営方法などは、地区によって様々です。多くの地区は地区内に各グループ等から選任された地区委員が定期的に協議しながら開催するのが一般的です。2740地区では40年間の長きに渡りグループ毎にホストクラブが移行する形式にて開催されてきました。この開催方法は、ホストクラブの文化や歴史的な背景を取り入れた独自のRYLAを開催できることや、普段青少年奉仕活動を実践できないクラブがこの活動に寄与できること、またクラブが活性化できるなど多くの利点があります。しかしながら、よりRYLAの理念を高いレベルで開催できているかなど問題点も多くあります。今後は新任の相浦委員長のもと、私も地区委員の一人として、地区内の指導者育成の場としてのRYLAを見守っていきたいと考えています。地区内多くの方々からRYLAについてご支援頂ければと思います。



地区委員長退任挨拶



国際青少年交換委員会 アーリー・ジェフリー スチュアート (諫早多良見 R C)



Rest, Recover, Reflect, and Revise

The events of 2019 that have spilled into 2020 have certainly challenged us all. From the political upheaval in Hong Kong, to the bushfires in Australia, to the novel coronavirus COVID-19 global pandemic. For the past few months, Rotary International has been challenged with a situation unlike anything we have seen in the history of the Rotary Youth Exchange Program. The 2019-2020 exchange year has essentially come to a grinding halt for most programs around the world, and we are all trying to salvage what is left of the current year. Therefore, for the remainder of the 2019-20 exchange year, as well as for the 2020-21 exchange year, we will use this time to rest, recover, reflect, and revise how we can better serve our Rotary Youth Ambassadors.

We currently have 7 students who began the orientation program last year in July. Those students have chosen to continue with the orientation program. Nearly all of them will postpone their departure by one full year. This will give us, both here and abroad, the opportunity to rest and recover physically, mentally, and economically. At the same time, we are reflecting on how we currently run our program, and how we will revise what we do in the future.

Finally, I can't thank all of the committee members enough for the many hours they worked in order to make sure all of our inbound and outbound exchange students were safe. I am humbled by their dedication to the Rotary Youth Exchange Program. We will finish this year quietly. However, we are determined to get back to 100 percent next year under the new leadership of Seiji Higuchi as chairperson.

Thank you everyone for your endless support!

休息し、回復し、熟考し、修正する。

2020年にあふれ出た2019年の出来事は、疑いなく私たち全員に挑戦をしました。香港での政治的激動からオーストラリアでの山火事、そして新型コロナウイルスCOVID-19の世界的流行に至るまで。過去数か月間、国際ロータリーは、私たちがロータリー青少年交換プログラムの歴史の中で見たことのない状況に直面しました。2019年から2020年の交換年は、世界中のほとんどのプログラムが基本的に停止となり、私たちは皆、今年度に残されたものを回収しようとしています。したがって、私たちは、2019年から20年の残りの期間と2020年から21年の交換年の期間を利用して、休息し、回復し、ロータリー青少年大使への奉仕の方法を熟考し、見直します。

現在、私たちには7人の生徒たちがいますが、そのほとんどが、昨年7月にオリエンテーションプログラムを開始しました。学生たちはオリエンテーションプログラムを続けることを選択しました。彼らのほぼ全員が出発を1年延期するでしょう。これにより、国内及び国外の双方で、身体的、精神的、そして経済的に休息し、回復する機会が得られます。同時に私たちは、現在のプログラムの運営方法を熟考し、将来の取り組みをどのように修正するかについても検討しています。

最後に、すべての委員会のメンバーが、私たちのインバウンドおよびアウトバウンドの交換留学生全員の安全を確保するために、何時間にもわたって働いてくれたことに対して、私はどんなに感謝しても感謝しきれません。彼らのロータリー青少年交換プログラムへの献身に私は恐縮します。今年は静かに終了します。ただ、来年は樋口誠司氏が新委員長に就任し、100%に戻す決意です。

皆様の末永いご支援に感謝します！

地区委員長退任挨拶



ロータリー財団委員会 岡村 康司（長崎南RC）



ロータリー財団は、人々の健康状態を改善し教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて世界理解、親善、平和を推進するプロジェクトに補助金を授与します。財団を通してロータリー会員は数千ものプロジェクトを実施して安全な水の提供、疾病との闘い、平和の推進、基本教育の提供、地域経済の発展を支援してきました。そしてロータリー財団は世界の先頭に立ってポリオ撲滅のリーダー的存在でもあります。そういう崇高な理念のもとに2740地区財団委員会は今年度もグローバル補助金を用いた奨学生の派遣を行い世界中で活躍できる人材を育ててまいりました。今年度は谷口大輔君がカナダのトロント大学、金子浩士君がイギリスのサセックス大学院、地区補助金事業で黒田裕美さんがアメリカのラトガース大学と3名の奨学生を送り出しました。

毎年11月がロータリー財団月間で今年度も地区内8クラブを回りロータリー財団にまつわる卓話をさせていただきました。また同時に11月24日の財団セミナーには、20年以上にわたりタイで識字率の向上の活動をされている原田義之先生（タイ国ダムロン高校日本語教師）を講師にお招きして現地での活動報告をしていただきました。地区内から多くの財団関係のメンバーに参加いただきました。翌年2月には補助金セミナーを開催し主に地区補助金の仕組みと活用方法について詳しく周知を行いました。

今年はご承知のように3月から新型コロナウイルスの影響でロータリー活動も停止しています。

財団委員会としても留学生の派遣を停止することなく、感染拡大防止には十分な配慮をして選考に必要な会議を進めてまいりました。次年度のグローバル補助金奨学生として長崎大学(院) 賀来敬仁君を留学させる予定です。

次年度も財団委員会を統括する委員長を留任いたしますが本年度はお世話になりました。



補助金委員会 園田 嘉生（佐賀南RC）



2019～2020年度のロータリー財団部門の補助金委員長を無事務めさせていただきました。

ところが、任期の後半にあっては新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）により、ロータリー活動がほぼ中止となって活動の一部が保留ないし延期状態になりました。なかでも、ロータリー奨学生にとっては緊急事態宣言の発令等により、国外渡航に対する禁止等もあり留学を中断せざるを得なかった留学生もあり、本当に残念だったと思います。したがって、補助金委員会の活動についても今年度は目に見えて実績はなくお役に立てなかったと感じています。

ただ思い出になるとすれば、2019年11月16日(土)にロータリー財団地域セミナーが神戸ポートピアホテルに於いて開催され、その出席者として参加できた事が一番印象に残りました。特にグローバル補助金申請が承認されるためのポイントを学ぶ事ができた事が実績だと思います。そして、国際ロータリー財団が事業目的としている、博愛・慈善・教育・人道的支援の水と衛生、さらに地域活性化を図りながら展開している事業が重要となっている事を理解し学びました。

このような事業を支援していく上で我が国の公益法人ロータリー財団も協力財団として活動しているのです。そこで、次年度は地区によるDDF（地区財団活動資金）の活用を促進するため、前年度以前から使いきれずに地区で多額の繰越金が発生しているので未配分DDFの20%までを増額使用できます。その他「年次基金」1人当たり150ドルの寄付を目標とし、ポリオプラス基金1人当たり30ドルの寄付を目標としています。

早くこの新型コロナウイルスが終息し、平常通りのロータリー活動に戻るように願い、次年度の委員長はじめ委員の皆様に対し引継ぎもままならなかった事をお詫び申し上げ、委員長退任の挨拶と致します。ありがとうございました。

地区委員長退任挨拶



資金推進委員会 **古賀 秀仁**（伊万里西RC）



皆様からのご寄付ありがとうございます

ロータリー財団は1917年アーチ C. クランフ国際ロータリー会長が「世界でよいことをするために」基金の設置を提案したことに始まり現在に至ります。

100年以上も前に創立されて以来、ロータリー財団は、教育の支援や持続可能な成果を生み出すプロジェクトに総額40億ドル以上の資金を提供しています。

勿論この資金は皆様のご寄付によるものです。

ご承知の通り現在は地区補助金制度が設立されており当地区では年々地区補助金の申請件数が増えています。この資金源を確保するためにも更なる財団寄付の増額が必要です。

今年度目標財団寄付一人平均150ドルこそ達成できませんでしたが多額のご寄付ありがとうございました。今年度申請していただいた地区補助金が次年度において地域に奉仕し、公共イメージアップに繋がる事を期待します。

ロータリー財団は最近、新型コロナウイルス関連の申請があった場合にすぐに補助金を授与できるよう、災害救援基金に300万ドルを充てました。引き続き補助金を授与していくため、災害救援基金へのご寄付を皆さまにお願いして退任のご挨拶とします。



ポリオプラス委員会 **上田 康雄**（長崎北RC）



一年間、エンドポリオに対するご支援ありがとうございました。

ポリオは1988年には世界125カ国において年間35万例が発生していました。ポリオプラスなどの活動により2009年には約1600例まで減少、2018年は33例でした。しかし2019年はナイジェリアでの発症はありませんでしたが、パキスタン146例、アフガニスタン29例と全体では増加しています。ナイジェリアは2017年以後、発症は0となっています。

現在、世界では新型コロナウイルスによるパンデミックが起きていますが、各国のポリオ根絶チームは、今まで築いてきたインフラを活用して、特にポリオ常在国の人々を新型ウイルスから守るべく支援に乗り出しているとのことです。

次年度も引き続きポリオプラス委員長を務めさせていただきます。引き続き、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

地区委員長退任挨拶



資金管理委員会 **竹内 一**（長崎北RC）



本年度（2019～2020）を以て委員長職を退任致します。

当委員会では、地区補助金・財団補助金の管理を通して補助金を利用するクラブに向けての財団事業の周知と利用の推進を行いました。

また本年度は、これまで申請等の手続きが「煩雑でわかりづらい」というご意見を反映してできるだけ申請を簡素化し、各クラブが使いやすい補助金を目指して活動して参りました。お陰様で多くのクラブの皆様にご利用していただき当初の目的が達成できたと思います。

次年度新しい委員長とメンバーの方に引き続き使いやすい補助金を目指して活動して頂ければと思います。

一年間ガバナー事務所の皆様・各クラブの事務局の皆様には大変お世話になりました。

今後共宜しくお願い致します。



米山記念奨学委員会 **大家 和義**（小城RC）



ロータリーの1年、2019年7月～2020年6月までの任期の後半に、この世界を襲った新型コロナウイルス（COVID-19）により無事に終えることができずに、心残りのまま引き継ぐことに誠に申し訳なく思っております。

私と同じく、千葉ガバナー・大石地区幹事と共に、地区委員の皆さん、56クラブの会長・幹事・米山委員長・会員の皆さんも同じ思いでしょう。唯、今年の2月に至る事業までのロータリアンの皆様の温かい厚情を頂き、深く感謝申し上げます。

旅立った10名の米山奨学生の皆さんに、寄り添ったお世話が出来たのだろうか？

長崎・佐賀県内の各大学へ留学している15名の米山記念奨学生の皆さんとは、学校の始業と同じく、2019年の4月の「オリエンテーション」時より付き合いが始まり、2020年の3月の「修了式」までが15名の米山記念奨学生の皆さんと一緒に行動する事業でありましたが、（5名の2回生が居ます。）この最後の「修了式・歓送会」が開催出来ずに送り出す事になり、贈る言葉が言えなかったのが心残りでした。

この期間の事業は、5月「米山委員長セミナー」・6月「学校説明会」補助・7月「研修視察旅行」・8月「カウンセラー・奨学生研修」・9～12月「出前卓話」・米山月間の10月「米山の集い」・11月次年度、「面接官のオリエンテーション」補助・12月「面接試験」補助・1月「学友会・総会、懇親会」など、思い起こせば一つひとつに色々なことがあり、充分なお世話ができたのかと思いつつ、修了した米山記念奨学生の各人が「学友会」の一員として、将来を切り開いていくことを願いつつ、常に連絡の取れるように、「学友会」の充実を図り、末長いお付き合いができればと思っております。

又、米山記念奨学会は常に、年度を重複して段取りをしていかなければなりませんので、ガバナー・地区幹事・事務局・地区委員の皆さんの協力を頂かなければ、遂行が難しいので、今後とも切に宜しくお願い致します。更には、56クラブのロータリアンの皆さんの浄財の基に、成り立っておりますので、皆さんのご協力をお願い致します。

2020年の4月からは、次年度の16名（+1名秋入学）の米山記念奨学生の皆さんとの付き合いが始まっております。既に、16名の米山記念奨学生の皆さんは変則的な4月の「オリエンテーション」を経験し（奨学生のみ）、カウンセラー・お世話クラブとの面会などと共に、今後の地区・委員会などの事業参加が難しいのではと思いつつも、これから2021年の3月までに、地区大会・米山の集い・出前卓話・国際交流会・総会・面接試験など年中行事がありますので、ロータリアンの皆様に米山記念奨学生に励ましの声掛けをお願いし、地区委員長の退任の挨拶とさせていただきます。



2020年3月会員数・出席報告

グループ	クラブ名	例会数	平均出席率	会員数				当該月			累計
				7月1日	うち女性	当月末	うち女性	新入	退会	増減	
第1グループ	佐賀	0	0.0	74	5	72	5	0	4	-4	-2
	小城	2	69.0	30	2	28	3	0	1	-1	-2
	牛津	0	0.0	30	0	33	1	0	0	0	3
	多久	0	0.0	38	5	38	4	0	0	0	0
	佐賀大和	1	76.0	26	6	25	5	0	0	0	-1
	小計		29.0	198	18	196	18	0	5	-5	-2
第2グループ	佐賀西	1	66.7	38	2	43	3	0	0	0	5
	佐賀北	1	67.4	45	1	44	2	0	2	-2	-1
	佐賀南	0	0.0	38	4	39	4	0	1	-1	1
	神埼	1	77.8	37	4	38	4	0	0	0	1
	佐賀空港	1	78.0	18	1	18	1	0	0	0	0
	小計		58.0	176	12	182	14	0	3	-3	6
第3グループ	有田	1	81.8	28	0	31	1	0	0	0	3
	武雄	3	88.0	56	5	51	5	1	3	-2	-5
	鹿島	1	93.8	34	4	31	4	0	2	-2	-3
	嬉野	4	100.0	26	2	25	1	0	1	-1	-1
	大町	2	73.3	11	0	14	0	0	1	-1	3
	太良	4	92.5	10	0	10	0	0	0	0	0
	小計		88.2	165	11	162	11	1	7	-6	-3
第4グループ	唐津	1	85.3	61	0	61	0	0	0	0	0
	伊万里	2	87.9	29	0	29	0	0	0	0	0
	唐津東	1	80.9	50	0	48	0	0	2	-2	-2
	唐津西	2	87.5	34	0	37	0	0	0	0	3
	伊万里西	1	94.3	41	0	40	0	0	0	0	-1
	唐津中央	0	0.0	37	3	36	4	0	2	-2	-1
	小計		72.6	252	3	251	4	0	4	-4	-1
第5グループ	佐世保	1	100.0	78	0	78	0	0	1	-1	0
	平戸	0	0.0	29	2	27	2	0	1	-1	-2
	北松浦	0	0.0	25	0	26	0	0	0	0	1
	佐世保西	0	0.0	24	4	22	3	0	0	0	-2
	松浦	0	0.0	26	1	28	1	0	0	0	2
	小計		20.0	182	7	181	6	0	2	-2	-1
第6グループ	佐世保南	0	0.0	62	0	61	0	0	1	-1	-1
	佐世保東	0	0.0	23	0	25	0	0	0	0	2
	佐世保北	0	0.0	40	2	45	2	0	0	0	5
	佐世保中央	0	0.0	46	1	49	1	0	0	0	3
	佐世保東南	1	62.0	39	0	41	0	0	0	0	2
	HTB佐世保	0	0.0	23	2	22	2	0	1	-1	-1
	小計		10.3	233	5	243	5	0	2	-2	10
第7グループ	大村	2	91.4	48	4	47	4	0	1	-1	-1
	島原	1	75.9	30	2	31	2	0	0	0	1
	雲仙	0	0.0	14	0	12	0	0	2	-2	-2
	大村北	0	0.0	24	1	25	1	0	0	0	1
	島原南	0	0.0	25	0	24	1	0	0	0	-1
	大村東	0	0.0	37	3	38	4	0	0	0	1
	小計		27.9	178	10	177	12	0	3	-3	-1
第8グループ	諫早	1	78.9	72	0	75	0	0	1	-1	3
	諫早北	2	69.2	74	4	73	3	0	0	0	-1
	諫早西	2	95.4	45	0	45	0	0	0	0	0
	諫早多良見	2	92.4	32	0	34	0	0	0	0	2
	諫早南	1	80.0	14	8	15	9	0	0	0	1
	小計		83.2	237	12	242	12	0	1	-1	5
第9グループ	長崎	1	81.5	74	0	71	0	0	4	-4	-3
	福江	0	0.0	33	0	32	0	0	1	-1	-1
	長崎北東	0	0.0	41	3	39	1	0	1	-1	-2
	福江中央	0	0.0	21	0	19	0	0	0	0	-2
	長崎西	1	82.1	43	1	42	1	0	1	-1	-1
	長崎琴海	2	87.1	11	0	11	0	0	0	0	0
	小計		41.8	223	4	214	2	0	7	-7	-9
第10グループ	長崎北	1	74.0	80	0	71	0	0	3	-3	-9
	長崎南	0	0.0	72	0	72	0	0	0	0	0
	長崎東	0	0.0	40	2	46	2	0	0	0	6
	長崎みなと	0	0.0	30	1	30	1	0	0	0	0
	長崎中央	1	95.1	55	0	50	0	0	2	-2	-5
	長崎出島	0	0.0	71	12	71	12	0	1	-1	0
	小計		28.2	348	15	340	15	0	6	-6	-8
56クラブ合計			45.9	2,192	97	2,188	99	1	40	-39	-4

*上記の表の新入・退会は当月中の数字で、累計は7月1日から2020年3月末までの増減です。

*COVID-19感染防止のため例会休会有り。



新入会員紹介

私たちの新しい仲間になりました方々をご紹介します。 ※氏名の下部は勤務先、役職

※今月号に掲載が間に合わなかった新入会員の方のご紹介は、次号に掲載させていただきます。



武雄RC
前田 浩尚 君
(株)京都屋
代表取締役社長

物 故 者

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



唐津東RC
宮島傳兵衛 君
(享年98歳)



雲仙RC
豊田 康裕 君
(享年72歳)

寄付者紹介

御厚意に深く感謝申し上げます。認証者の方を掲載いたします。

ロータリー財団		
種 類	氏 名	クラブ名
メジャードナー	栗 林 英 雄	諫 早 北
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー	岩 崎 修 一	諫 早 北
	浦 信 夫	長 崎 琴 海
ポール・ハリス・フェロー	松 尾 裕 之	小 城
	嘉 村 幸 彦	佐 賀 南

米山記念奨学会		
種 類	氏 名	クラブ名
米山功労者メジャードナー	栗 林 英 雄	諫 早 北
米山功労者マルチプル	吉 田 知 之	諫 早 西
米山功労者	佐 伯 秀 人	長 崎 出 島



ガバナーノミニー・デジグネート決定のお知らせ

2019～2020年度 第2740地区ガバナー 千葉 憲 哉

2022～2023年度ガバナー候補者の推薦について、2019年11月ガバナー月信（Vol.5）にて、地区内クラブ会長宛に募集通知をいたしましたところ、佐賀ロータリークラブ様より推薦の申し出がありました。期限内の推薦は1件でした。

従いまして、国際ロータリー細則第12条030節「指名委員会手続」の定めにより、ガバナー指名委員会に於いて指名されました上村春甫氏（佐賀RC）が、2022～2023年度ガバナーに就任する、ガバナーノミニー・デジグネートに選出されたことを公表いたします。

文 庫 通 信 [382]

ロータリー文庫通信382号 2020年4月 新型コロナウイルス禍の下で

新型コロナウイルス感染の拡大はロータリー活動に多大な影響を与えています。ハワイでの世界大会は中止となりました。国内においても、PETSや地区大会の中止を余儀なくされました。その中で、特に「幻の講演」となったD2650地区大会RI会長代理の鳥居PDGの「RI現況報告」を掲載します。

また「緊急事態宣言」により、外出の自粛を要請され在宅時間が多くなり、ロータリーについて考える機会が与えられました。そこで今回は、115年を超えるロータリーの歴史の中で、ロータリーの奉仕哲学とその奉仕の実践に関する基本原理を簡明かつ的確に表現している「決議23-34」について、更に、国際ロータリーという組織の本質は何かを考える意味で、2019年規定審議会で事務総長に与えられた「CEO（最高経営責任者）」という名称が何を意味しているかについて、考えていただければと思います。

書 名	著者／出版社 等	発行年	頁	※
RI現況報告「ロータリーの変遷と本質」 （D2650地区大会 RI会長代理）	鳥居 滋／岡山東RC D2690PDG	2020	13P	※
決議23-34はロータリーのキイ・ポイント である（増補改訂版 関西ロータリー研究会）	末積 正／神戸RC D268	1987	125P	※
決議23-34 歴史的背景と意味 （D2680 職業奉仕講演会）（P.P.T.174枚）	刀根 莊兵衛／敦賀RC D2650PDG	2018	17P （29P）	※
CEOとして最強の権限を与えられた事務総長 （追加資料提供：D2650PDG刀根莊兵衛）	田中 毅／尼崎西RC D2680PDG	2020	4P （13P）	※

・上記 ※印はデジタル化されている資料です。

報告 フェース・シールド寄贈について

2019－2020年度 第2740地区ガバナー 千葉 憲 哉

さる4月27日、長崎県医師会館で長崎県医師会長森崎正幸氏にフェース・シールドの寄贈を行いました。第2760地区の伊藤靖祐ガバナーの呼びかけで全国34地区にフェース・シールドを寄贈しようという提案がありました。フェース・シールドとは医療関係者が感染防御目的で顔面を覆うものです。今回、新型コロナウイルス感染のパンデミックで世界中の医療関係者には必須のものです。伊藤ガバナーのご協力で素材メーカーが自主制作するものです。ほぼ原価の1個100円で作成し、全国に配布してくれるというものです。4月中頃、早速、長崎県医師会と佐賀県医師会に要望をお聞きしましたところ、長崎県が2万個、佐賀が1万個欲しいということでした。ところが、長崎港内の修理中のクルーズ船内で乗務員（635人）に感染者が発生したとの報道。長崎県庁には配布できるフェース・シールドの在庫がないということがわかり、長崎県医師会から緊急に1000個欲しいとの連絡が入りました。ガバナー事務所からメーカーに問い合わせたところ、すぐに4月25日に発送していただける事になりました。

そこで4月27日に贈呈式となったのです。

贈呈する前の4月22日に急遽、新型コロナウイルス感染についての危機管理委員会を開催。議題としてフェース・シールド寄贈を検討していただきました。参加者全員の賛同を得ましたので贈呈することになりました。しかし、問題は財源です。地区財団委員にお尋ねすると、地区補助金の一部使える事。そして世界社会奉仕の財源が蓄積しているのでそれから一部使用できることがわかり合計300万円が用意できました。

長崎県においてはまだクラスター発生は無く、集団発生はクルーズ船内のみです。しかし、1名の感染者は長崎市内の医療施設に入院治療中です。病院内感染防止がもっとも大切です。病院崩壊が起きないようにしなければなりません。そのためにも医療従事者の感染防護は必要です。長崎大学関係者の話では長崎県の感染者のピークは7月前後と予想しているそうです。ロータリー行事、例会も6、7月までは困難かもしれません。

今後、新型コロナウイルス感染におけるロータリーの支援活動が求められるでしょう。自らの健康もあります。自らの仕事もあります。「命あつての仕事」かもしれませんが、次年度はロータリー活動には苦難の時期でしょう。「自分には何ができるか？」を考え、できることをする。」ことが次年度のロータリアンの在り方でしょう。



長崎県医師会の森崎正幸会長



佐賀県医師会の池田秀夫会長と花島光喜ガバナーエレクト

芸術家の視点

地方の時代が叫ばれて久しい。

芸術文化の世界に身を置く人々の中には、以前から中央より地方に軸足を置き、活動した方々がいた。

一般人から見れば、異質の鋭い観察力や豊かな感性で創作に一身を投じたのである。

その成果は作品となって世に放流され、あまねく人々に新鮮な感動を与え続けてきた。

諫早に縁のある画家や書道家、詩人、歌人、文筆家を含む文化人の足跡を辿ると、限られた人生の中で如何にその生を全うしたか、今を生きる者に語りかけてくる。

ガバナー月信の紙面を借りられるこの機会に、皆さんに紹介することにした。

シュガーロードの守り人

森 長之（諫早市芸術文化連盟名誉会長）

菓秀苑森長の会長、諫早市芸術文化連盟会長を長年にわたって勤め上げ、地域の文化発展に多大な貢献をした人物。二〇一二年、長崎新聞でもながさき人紀行で紙面一ページを使って詳しい記載があった事は、まだ記憶に新しい。諫早ロータリークラブでも入会五十五年を誇る古参のロータリアンであり、更に完全無欠席で表彰も受けている。

「おこし」と言えはひなびた和菓子というイメージがあるが、その伝統を守りながらも多彩な工夫を凝らして、時代への適応を真剣に実行している。更に生カステラなどへの挑戦にも目を見張るものがあり、驚きである。当地区は古来、交通の要衝として、物流にも関与してきたところだが、江戸時代のいわゆるシュガーロードを考える時、穀倉地帯の米と砂糖とのコラボレーションは想像に難しくはない。昔から菓子文化が営々と続いてきた所以であろう。

「菓子は文化なり」の信念を旗印に、シュガーロードの良き文化継承者として、その責を果たしている。



（長崎新聞2012. 5. 12より転載）

編集後記

2020年がスタートしたと思ったら、もう5月後半。特に2月以降コロナ関連で毎日頭を悩ませてきたので、ことさらに早く感じる。せっかく編集委員に選んでいただいたのに、自分のことで精いっぱいの後悔の日々。ノーベル賞の山中教授が述べておられた、『resilience（対応力）と感謝』この2つを忘れずにこの時代を乗り切りたい。このような時こそロータリーは社会を回す手助けをせねばと改めて感じている。

（川崎）